

## 原爆被爆者における糖尿病の罹患率、1969-2015年

放影研の調査プログラムの一つである成人健康調査（AHS）<sup>1</sup>では、広島・長崎の原爆被爆者を対象とした2年ごとの健康診断を通じて、長期間にわたる調査を実施しています。本研究では、1969年から2015年までの成人健康調査参加者9,131名について、糖尿病の罹患率と放射線被ばくの関連を調査し、それが都市、性別、被爆時年齢で変わるか否かについて調べました。

解析の結果、広島では放射線被ばくと糖尿病の罹患率の間に、一部の被ばく線量域で、関連性が示唆されました。しかし、長崎では関連性は認められず、結果は都市間で一貫していませんでした。このことから、原爆被爆者における放射線被ばくと糖尿病の罹患率との間には、潜在的な交絡因子<sup>2</sup>が存在する可能性が考えられ、因果関係を確認するにはいたりませんでした。

### 【注釈】

#### <sup>1</sup>成人健康調査（AHS）：

原爆放射線による病気の発症などの長期間にわたる健康影響を調べることを目的とした臨床調査プログラムです。この調査は1958年から行われ、約21,000人が参加しています。

#### <sup>2</sup>交絡因子：

研究で調べられている、原因（この研究の場合は放射線被ばく）と結果（ここでは糖尿病の発生）との間に間接的に影響を及ぼす、その原因および結果以外の要因のことを指します。例えば本研究においては、広島と長崎の生活様式の違い（長崎の爆心地は市街地から離れていたこと）、近距離被爆者と遠距離被爆者の社会経済的要因の違い、家族歴などが交絡因子として考えられるほか、未知の交絡因子が潜んでいる可能性もあります。

doi. 10.1210/clinem/dgab902

doi (digital object identifiers) とは、ほとんどのデジタル情報に与えられた、コンテンツ（論文や作品等）独自の不変番号で、インターネットの検索を通じてオンライン資料を特定するために用いられます。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先にしています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は専門の学術誌に掲載された論文をご覧ください。